もも・ネクタリン情報 No.2

令和５年 3月22日発行

JA グリーン長野営農部・生産販売部・生産購買部
JAグリーン長野もも部会

◆生育状況については果樹総合情報を参照

◆当面の重点作業について

1. 凍霜害対策を万全に行う。(表土が濡れていると被害は軽減される。)
2. 摘蕾を適期に実施する。※実施方法等は、前回のもも、ネクタリン情報参照。
3. 開花期前後のかん水を行い、人工受粉を徹底し、結実安定・大玉生産を図る。
4. せん孔細菌病対策を徹底する。

◆せん孔病対策の(特)散布について

せん孔細菌病の発生が心配され、開花直前散布まで期間が長くなる場合に特別散布する。

1. 散布時期…4月初旬　　実際散布日記入　　月　　日
2. 調合薬剤・量…水100 ℓ当り

展着剤アビオンＥ・・・ １００mℓ (固着性展着剤)
ｉＣボルドー４１２・・・・3kg (せん孔細菌病)

３．散 布 量・・・１０ａ当り ⇒ ３５０ℓ以上

４．留意事項

①散布直後に降雨にあうと、薬害発生、効果低減になる。
②薬液調合後、沈殿を始めない間（調合後６時間以内）に散布する。
③ももは、ｉｃボルドー４１２に代えて４―１２式ボルドー液（水 100ℓ当り生石灰１，２００ｇ＋㊞硫酸銅４００ｇ）を使用してもよい。
④ネクタリンは登録がない、4―12式ボルドー液並びにｉｃボルドー66Dは使用できない。
⑤住宅・駐車場の近くで汚れを心配される場合は、ボルドーに代えて、ムッシュボルドーＤＦ５００倍（水 100ℓ当り２００ｇ）を散布してもよい。
⑥アビオンＥに代えて、Ｋ．Ｋステッカー3,000 倍（水 100ℓ当り３３㎖）を使用してもよい。
この場合、必ずK.Ｋステッカーは、ボルドー液調合後に混用する（凝固するため）

【もも・ネクタリン薬剤防除】

◆第２回（開花直前）薬剤散布について

１．散布時期・・・開花直前　　実際散布日記入　　月　　日

２．調合薬剤・量・・・水１００　ℓ当り

展着剤アビオンＥ・・・ １００mℓ (固着性展着剤)
ｉＣボルドー４１２・・・ 3kg (せん孔細菌病)

３．散 布 量・・・１０ａ当り ⇒ ３５０ℓ以上

４．留意事項

①散布直後に降雨にあうと、薬害発生、効果低減になる。
②薬液調合後、沈殿を始めない間（調合後６時間以内）に散布する。
③ももは、ｉｃボルドー４１２に代えて４―１２式ボルドー液（水 100ℓ当り生石灰１，２００ｇ＋㊞硫酸銅４００ｇ）を使用してもよい。
④ネクタリンは登録がない、4-12 式ボルドー液並びにｉｃボルドー66Ｄは使用できない。

⑤住宅・駐車場の近くで汚れを心配される場合は、ボルドーに代えて、ムッシュボルドーＤＦ５００倍（水100ℓ当り２００ｇ）を散布してもよい。
⑥アビオンＥに代えて、Ｋ．Ｋステッカー3,000倍（水100ℓ当り３３㎖）を使用してもよい。
この場合、必ずK.Kステッカーは、ボルドー液調合後に混用する（凝固するため）

◆人工受粉徹底と開葯について

川中島白桃等は、自家(花)受粉では極めて結実が悪く、人工受粉が必須作業です。
人工受粉徹底のため、花粉確保のため開葯を実施する。

１．人工受粉を必要とする品種・・・川中島白桃・なつき・さくら・黄ららのきわみ・西王母等
※川中島白鳳・黄金桃等も実施すれば、品質（生理落果減等）の安定につながる。
※受粉する品種の開花に合わせて花粉を用意する。花粉の寿命は短く有効期間は１週間程度。
２．開葯品種(花粉・花量の多い品種)
あかつき、白鳳(千曲)、黄金桃、白根白桃、なつっこ、フレーバートップ、ファンタジア
なお、主要品種では、川中島白鳳、サマークリスタル、秀峰等も花粉がある。
３．１０ａ当り必要花粉量・・・花蕾で１kg位（収穫カゴ一杯位）

図　花の採取適期　※開花直前(風船)～開花直後(未開葯)を採取。

遅い

花粉の発芽率は高いが、開葯しており、花粉の採取量が減少する。

採取適期
この時期のものは、発芽率が高い。このような風船状を採取する。(開花直前～開花始め期)

この時期のものは
発芽率が低い。

４．人工受粉にあたっての注意事項
①５分咲き(下枝)と満開期(上枝)の２回実施する。特に上枝を重点に行う。
②開花当日～４日後程度の間に受精能力がある。なかでも２・３日目が最も良い。
※花弁が白色からピンク色に変わったものを狙うと良い。
※上枝と下枝、枝先と枝基では開花時期が異なるため注意する。
③早朝等は行わず、気温の上がった（気温１５℃以上、気温２０℃適温)、午前１０時～３時頃を目安に行う。
④夕方寒くなったら翌日に行う（１５度以下になると花粉管の伸びが低下するため)
⑤着果させたい所だけ狙いを定めて受粉する。後で摘果が軽減される。
⑥開花期間が長くなり保存期間が長くなった花粉は使用しない。

◆弱樹勢対策のチッソ施用について

１．施用時期・・・満開～落花期（落花５～７日後頃まで）

２．施 用 量・・・有機専科１０ａ当り１袋又は、ノルチッソ１０ａ当り０．５袋　※老木は２倍施用する。

３．留意事項・・・実止まりが多すぎると樹勢が弱りやすいので施用する。

◆灰星病対策について

灰星病は、せん孔細菌病と病斑の症状が似ている。区別がつかなくとも、共に処分する。症状は満開期頃から見え始めるので、一斉点検を行う。

開花期に「花腐れ」症状となっている部位がある。発見したら早急に、病斑部の切除を行い、切除した病斑部は、焼却処分の実施を徹底する。

◆せん孔細菌病春型枝病斑を除去しよう！！

※農薬散布だけではせん孔細菌病は撲滅できない。

春型枝病斑の点検･切除･処分一連の作業は撲滅の必須作業

１．病害特徴と感染・春型枝病斑と葉への感染症状の特徴

①細菌の感染によって発生する病害。

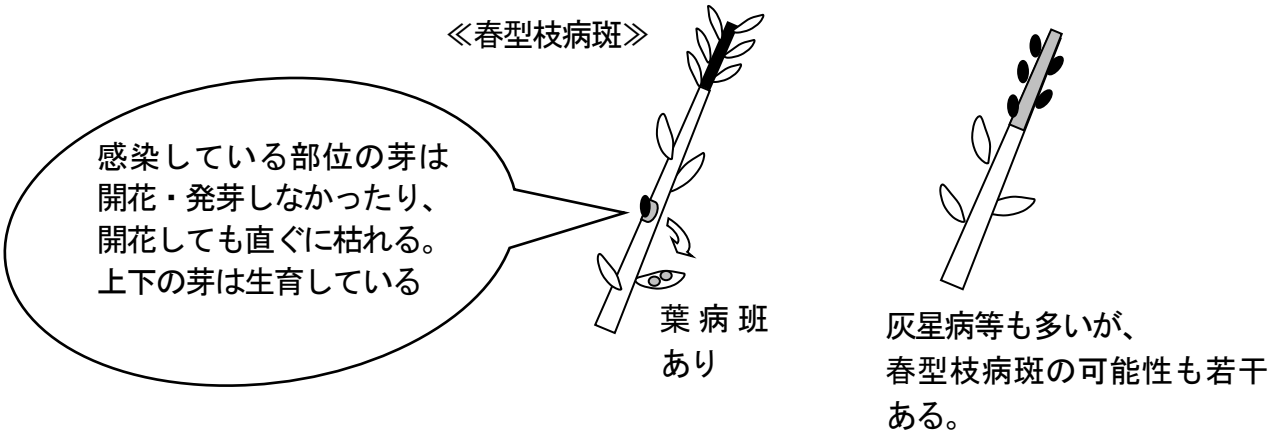
②強い風雨で葉に傷がつき、また細菌が飛び散り感染する。

③弱い「黄金桃」、「極晩生種（白根白桃、あぶくま等)」「川中島白桃」、「あかつき」等の品種は特に注意。

④春型枝病斑は開花期頃から現れ、芽基部がやや陥没し、薄い黒褐色を呈する。５月中下旬頃には黒色の典型的な病斑となる。枝病斑は芽基部に発生し、陥没してひび割れる。ヤニを噴出することもある。

※枝先端に花腐れ・枝枯れしているものは、灰星病の可能性も高いが、せん孔細菌病である事もある。
いずれの場合でも剪除は必要。

⑤葉では始めに葉脈で区切られた不整形の斑点ができ、淡褐色～紫褐色の斑点となり、やがて病斑部分が乾いて抜け落ち不整形の穴になる。



2. 防除対策

①**薬剤防除だけでは防ぎきれない**難病害であるため、
耕種的防除が重要になる。

②耕種的防除として、**春型枝病斑の剪除が最も重要**になる。できるだけ、早く剪除し感染拡大防止を行う事で、かなり被害を軽減できる。発病は6月までだらだらあるため、2～3回程度に分けて、園内の巡回し病斑切除を行う。

・結果枝をよく見る。花腐れ症状がある、芽の基部周辺が褐色に変わっている、亀裂がある、ヤニが出て いる等を確認し、病斑を確認する。見つけたら、**病斑部より、3芽程度多く切る。**

・葉に病斑がみえたら、上部、又は周辺部に必ず春型枝病斑が存在するため、確認する。

・風当りの強い園や、園の外周部に多いので、特によく確認する。

③剪除した病斑部は、できるだけ園外持ち出したり、土中または焼却処分する。

④袋掛けも果実感染を防ぐ、重要な方法。発生が多い園は、早めに袋掛けを実施する。

⑤薬剤防除は、前述した通り、効果は完全ではないが、重要。なお、散布量をしっかり撒く事。
発生の多い園外周もしっかりと撒く事は重要。

写真の○印部分が、被害例です。

地域全体による一斉防除により防除効果を高め、せん孔細菌病の感染を減らそう！！

１本の樹で５か所程度のせん孔細菌病枝病斑があれば、その樹の果実へのせん孔細菌病の発生は甚大となる。園に行く時はせん定ハサミを常に持ち歩くこと。

長野県№１のもも・ネクタリン産地を守ろう！

《栽培に関する問合》

佐藤（川中島・松代）:090-7179-9866／丸山（更北）:080-1202-0260／根津（信更）:080-1203-8576

寺澤（篠ノ井）:080-1188-5229／外谷（篠ノ井）:080-8048-6602／福田（若穂）:282-2002

松坂（全域・編集担当）:080-1188-4131／営農部（本所）:292-0930

《販売に関する問合》各流通センター・共選所／生産販売部（本所）:292-0930

《資材に関する問合》各JAファーム・営農資材センター・経済課／農業資材課:299-3311